

あそぶ・まなぶ・語る



周防大島町総合体育館陸上競技場 / 日本ハワイ移民資料館
八幡生涯学習のむら / 宮本常一記念館

第46号
2024年5月

20周年 宮本常一 記念館

周防大島町平野にある宮本常一記念館では、本町出身の民俗学者・宮本常一が遺した資料を保管し、展示しています。当館は、国や県の助成を受けた「文化教育交流促進



施設」として平成16（2004）年5月18日に開館し、今年で20周年を迎えます。当館で保管・展示している資料を大別すると、「文書資料」「蔵書資料」「写真資料」「民具資料」になります。

「文書資料」は、宮本が民俗調査に際して作成した聞き書きや古文書等の筆写、また

自筆の原稿などです。目録を採って整理しているもので約6千点、未整理のものも含めると1万点を超えます。このうち414点が令和4年3月に「宮本常一関係資料」として山口県の有形文化財（歴史資料）に指定されました。

「蔵書資料」は、宮本が愛読した書籍や自身の著作などで、約2万冊に上ります。蔵書には宮本の手による線引きや書込みが散見し、彼の着眼点や思索にふれることができます。

「写真資料」は、宮本が主に昭和30年から55年にかけて撮影した写真で、フィルムにして約1900本、コマ数にして約10万点、それら写真を貼り付けたスクラップブックが別に約170冊あります。10万点の写真についてはデジタルデータ化し、当館の企画展や刊行事業、また館外の出版・放送等に供しています。

「民具資料」は、昭和51年頃から宮本の呼びかけで旧東和町の青年団が中心になって収集したものです。厳密に言えば宮本自身の手による収集資料ではないのですが、民具というモノを窓口にして地域の生活・生業を捉え、さらにはその収集活動を通して地域文化を継承発展させていこうとした宮本の企図が強く反映されています。なお、旧東和町で集められた民具は約1万4千点

に上りますが、そのうち3465点が「周防大島東部の生産用具」として国の重要有形民俗文化財に指定されています。

このように、当館の強みは、宮本ゆかりの膨大な民俗学的な資料を保管していることです。それらの整理と公開、そして研究を推し進め、周防大島をはじめとする農山漁村の生活文化の多様性と可能性とともに盛り出していきたいと考えております。

開館20周年という節目を迎えるにあたり、現在展示室やホームページのリニューアル、記念講座の準備を進めているところです。今後も宮本常一記念館の活動にご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。なお、本誌の2頁目には開館20年の歩みをまとめましたので、併せてご覧ください。（板垣優河）



【宮本常一記念館関連年表】

昭和61(1986)年9月	宮本常一記念事業策定審議会の設立。機関紙『郷土』の刊行、写真資料の整理、シンポジウム・講演会等を進める。
平成11(1999)年3月	宮本常一の遺族のご厚意により、資料一式が東和町(現周防大島町)に寄贈される。
平成14(2002)年3月	新山村振興等農林漁業特別対策事業(国庫補助事業)等の助成を受けて着工。
平成16(2004)年5月	開館。正式名称は「周防大島文化交流センター」。重厚なアーチ型ドームはTEM研究所の設計による。
平成17(2005)年3月	宮本の調査ノート等を翻刻し、印刷に付した『宮本常一農漁村採訪録』の刊行開始。現在26巻まで刊行。
平成19(2007)年8月	宮本常一生誕百年記念事業実行委員会による「生誕百年記念の集い」、写真パネル展「宮本常一が歩いた昭和30年代の日本」の開催。
平成22(2010)年9月	フィールドワーク「古写真の風景をあるく」の実施。宮本が周防大島で撮った写真を手に、その撮影現場を踏査する企画。
平成24(2012)年6月	地域交流員制度の設立。第1回地域交流講座を開催し、当館の機能を利用して生涯学習に取り組もうとする交流員を養成。翌年より交流員相互の情報交換の場として地域交流談話会を開催し、併せて『文化と交流』を創刊。現在7号まで刊行。
平成26(2014)年12月	開館10周年記念事業として写真集『宮本常一の風景をあるく』シリーズの刊行開始。平成29年3月までに「周防大島東和」「周防大島久賀・橘・大島」「周防大島諸島」の3冊を刊行。
平成27(2015)年4月	町内の社会教育施設(宮本常一記念館、周防大島町陸上競技場・総合体育館、八幡生涯学習のむら、日本ハワイ移民資料館)間の連携を強化すべく、周防大島町社会教育施設連携協議会を発足。広報「あそぶ・まなぶ・語る」の発行、町内外の視察研修等を進める。
平成27(2015)年8月	公募により、当館の愛称が「宮本常一記念館」に決定し、町長に報告。
平成29(2017)年8月	図録『宮本常一コレクションガイド』の刊行。宮本常一生誕110年記念フォーラムの開催。
令和元(2019)年11月	「宮本常一旅学講座」の開催。稀代の旅人でもあった宮本に因んで、旅の過去・現在・未来について考える講座。
令和2(2020)年8月	YouTubeにて「宮本常一チャンネル」を配信開始。宮本常一記念館の取り組みや周防大島の生活文化などを幅広く紹介。
令和4(2022)年3月	当館所蔵の文書資料414点が「宮本常一関係資料」として山口県の有形文化財(歴史資料)の指定を受ける。
令和5(2023)年9月	「宮本常一記念館公開講座」の開催。宮本が遺した資料を窓口にして、農山漁村の生活文化や宮本の学問的な魅力に迫る講座。

新しい季節に向けて トレーニングを はじめよう!

町 島 大 防 周
館 育 体 合 総

当施設には各種トレーニングに対応できるマシンを設置した「トレーニングルーム」があります。健康維持向上、シェイプアップ、筋力アップなど様々なリクエストに応える使いやすい器具を揃えております。また月に1度、専門の指導員による指導を実施します。運動方法や各種トレーニングマシンの使い方などをわかりやすくアドバイスいたします。

なお、初めての方は初回講習会の受講が必要となっております。事前にスケジュールをご確認ください。見学は自由です、お気軽にお立ち寄りください。

【利用料金】

1回2200円 お得な回数券もございます。12回22000円

【設備】

- ・有酸素運動系(エアロバイク、ランニングマシン等)
- ・筋力トレーニング系(チェストプレス、ショルダープレス等)
- ・ストレッチ系(ベルトマッサージ機、ストレッチマット等)
- ・血圧測定器、体脂肪計、無料ロッカールーム、シャワー(2200円)

【利用時間】

9時～21時(金・土・日・祝は17時まで)

※年末年始(12月29日～1月3日)及び臨時休館日を除く。

【問い合わせ】

0820・78・2512



日本ハワイ 移民資料館が 移住 縁で



昨年の夏、「瀬戸内のハワイ」と呼ばれる周防大島で、毎年夏休み期間の毎週土曜日に開催される「サタフラ」ことサタデーフラを見学するために関東から来られたご夫妻が資料館に立ち寄られました。館内見学の合間に私達スタッフと大好きなハワイや宮本常一先生の話題で盛り上がり、一緒に楽しいひと時を過ごしました。その中で、このご夫妻が周防大島に移住する予定であり、空き家を探しているとのことでした。早速、町の空家定住対策の担当課に連絡を取り、詳しい状況を聞きました。また、移住後も働きたいとのこと希望で、柳井や岩国に近い地域を候補と考えているとのこと。そこで大島大橋に近い場所を紹介するに至りました。

中甸の引っ越しが決定しましたが、建物がかなり傷んでおり修理や設備投資が必要と分かり、家主さんのご協力を得て無事リフォームが完了しました。

ご夫妻の引っ越しも済んで安心していただきたちは、びっくりする事態に遭遇することになります。



度目のびっくりでした。ご夫妻がいかにハワイを好きなのかを窺われます。

近所のみなさんや通りがかりの人々も興味津々で眺めています。ある人から「あの旗は何の旗ですか？」と聞かれ「ハワイの州旗ですよ」と答える機会がありました。「瀬戸内のハワイ」と呼ばれる周防大島ですが、意外とこの旗は知られていないようです。

ご夫妻の門出を喜ぶと同時に、あらためて「ハワイ移民の島」としての周防大島を広めていかねばと思っただ出来事でした。（藤元良哲）

原田裕規 作品 寄贈・展示公開



日本ハワイ移民資料館

昨年6月から7月に開催しました山口県出身のアーティスト・原田裕規さんの個展。当館初の現代美術展

となる展示は各種メディアに取り上げられ、全国各地から来館者が訪れるなど大きな話題となりました。終了後も再展示を求める声を多くいただいていた。

その反響に伝えるべく、原田氏は作品を当館に寄贈されました。会期中は4点の展示作品をそれぞれ巡って鑑賞する形式だったのですが、寄贈にあたって常設展示用に利便性を高めるべく、館内1ヶ所で作品を鑑賞できるようにします。6月初旬の公開を目途に準備を進めております。今後の告知をお待ち下さい。

ハワイ移民の歴史と文化をテーマに制作された原田さんの映像作品。多くの方々にご覧いただくことを願っております。（木元真琴）

《作品概要》「Shadowing」は、ハワイ移民の文化や周防大島の民俗学者・宮本常一の著作をモチーフとした映像作品です。内容は、ハワイの日系アメリカ人に扮した『デジタルヒューマン』としての作家が、ハワイで話されているピジン英語を用いて、日系人や周防大島にまつわる様々なエピソードを語ります。

令和6年度 陶芸教室のお誘い



毎月第1、3の水・木・土曜日に開催。初心者の方には基礎から学べる入門講座がおすすめです。

◆本格講座

【開講日】

①毎月第1、3水曜

②毎月第1、3木曜

③毎月第1、3土曜

※時間はいずれも13時～15時

④毎月第1、3水曜19時～21時

【受講料】 1500円（年間一括払い15000円）、材料費…粘土代

1kgにつき200円

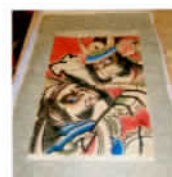
◆入門講座（初心者向け）

陶芸の基本技術を習得するコース。

本格講座の4つの開講日のいずれかに連続3ヶ月ご参加いただけます。

※受講料は同じ。別途、入会金

1500円が必要です。



表具講座

見学できます

講師に表具の歴史や技術、日本建

築などについて解説していただきな

がら実際に掛軸を作成します。初め

ての方は講師が用意した材料を使っ

て紙の扱い方やノリの種類、刷毛の

使い方を練習しながら掛軸を作る技

法を学びます。経験を積んで気に

入った書や思い出の画を自分で掛軸

に仕立て、新しい季節を迎えるのも

楽しみです。開講中はご自由に見学

いただけます。

【日程】 5月18日（土）、19日（日）、

26日（日）、6月2日（日）

【時間】 13時半～16時半

【場所】 八幡生涯学習のむら

語らいの間

【講師】 金本豊

（表具工指導員・一級技能士）

【問い合わせ】

0820・72・2601



久賀のなむでん踊りは、田植え後

に行われてきた虫送りの行事です。

なむでん踊りでは、稲田の中で討た

れた平家の武将・斎藤実盛が稲を恨

み虫となつて害をなすという伝承に

ちなみ、実盛の人形を先頭に町内各

所を踊りまわり稲の害虫や病を人形

に移し、最後に海に流して豊作を祈

りました。

虫送りは、かつては周防大島でも

各地で見られた行事でしたが、農薬

の普及や水田の減少などで次第に行

われなくなりました。久賀のなむで

ん踊りも現代では虫送りとしての意

味はうすれ、みかんをはじめ様々な

農作物の害や災厄をはらうめでたい

踊りとしての性格をおびています。

しかし、久屋寺での供養、鉦や太鼓

を打ち鳴らしての踊り、海岸での施

餓鬼といった行事の構成は江戸時代

に記録された形を伝え、貴重な民俗

芸能として山口県無形民俗文化財に

指定されています。



【写真＝作成中のデコ】

時代の変化や行事の担い手の高齢化、人口減少などからなむでん踊りも何度も休止を余儀なくされ平成18（2006）年から無期限の休止に入っていました。同27（2015）年、9年ぶりに復活すると、以後、保存会の尽力で毎年行われるようになりました。子どもたちへの伝承にも取り組み、少しずつ参加者も増えつつあります。ですが、子どもが持つにはデコ（実盛人形）が重く扱いづらいようでした。また、長年の使用によって道具にも傷みが見られるようになっていました。そこで今年、復活10年目を機にデコを新調することになりました。今年のなむでん踊りでは新しいデコをお披露目いたします。ぜひご覧ください。（古賀瑞枝）